

相当隙間面積(C値)

長尾直基様邸新築工事

気密測定結果シート

気密測定状況

2回目測定結果

1回目測定結果

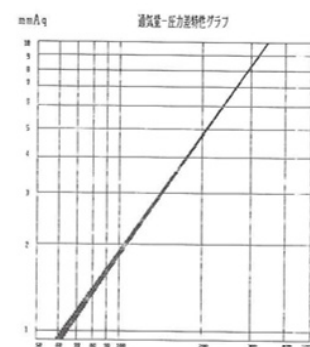
気密測定日時

2019年5月30日

2019年5月30日 テーブルNo. 0003
モード: 自動測定

経路当量隙間面積: $nA = 43 \text{ cm}^2$
透気率: $a = 62.6$
気密特性係数: $n = 1.3$
室内温度: 21.6°C 露点 (b): 0.687
室外温度: 24.3°C 露点 (X1): 1.009

測定パラメータ
圧力差 2.1mmHg 透気量 105 m^3/h
圧力差 2.8mmHg 透気量 136 m^3/h
圧力差 3.5mmHg 透気量 161 m^3/h
圧力差 4.7mmHg 透気量 200 m^3/h
圧力差 6.1mmHg 透気量 234 m^3/h

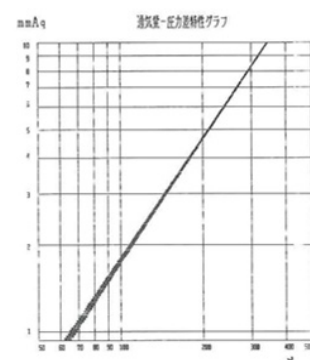


3回目測定結果

2019年5月30日 テーブルNo. 0004
モード: 自動測定

経路当量隙間面積: $nA = 45 \text{ cm}^2$
透気率: $a = 65.8$
気密特性係数: $n = 1.4$
室内温度: 21.7°C 露点 (b): 0.686
室外温度: 22.1°C 露点 (X1): 1.001

測定パラメータ
圧力差 2.1mmHg 透気量 111 m^3/h
圧力差 2.8mmHg 透気量 136 m^3/h
圧力差 3.5mmHg 透気量 168 m^3/h
圧力差 5.0mmHg 透気量 213 m^3/h
圧力差 6.4mmHg 透気量 246 m^3/h

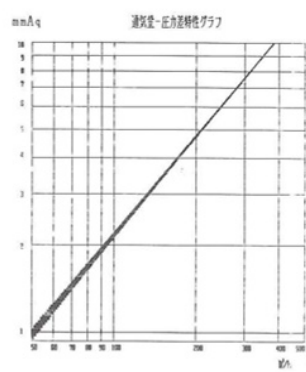


目標数値 $0.5 \text{ cm}^2/\text{m}^2 > \text{結果数値 } 0.25 \text{ cm}^2/\text{m}^2$

2019年5月30日 テーブルNo. 0001
モード: 自動測定

経路当量隙間面積: $nA = 34 \text{ cm}^2$
透気率: $a = 50.0$
気密特性係数: $n = 1.1$
室内温度: 21.1°C 露点 (b): 0.687
室外温度: 19.5°C 露点 (X1): 0.895

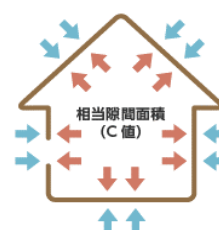
測定パラメータ
圧力差 2.2mmHg 透気量 101 m^3/h
圧力差 2.9mmHg 透気量 129 m^3/h
圧力差 3.7mmHg 透気量 161 m^3/h
圧力差 4.4mmHg 透気量 186 m^3/h
圧力差 5.5mmHg 透気量 222 m^3/h



平均隙間合計/実質延床面積 = 相当隙間面積

$$41 \text{ cm}^2 / 162.32 \text{ m}^2 = 0.25 \text{ cm}^2 / \text{m}^2$$

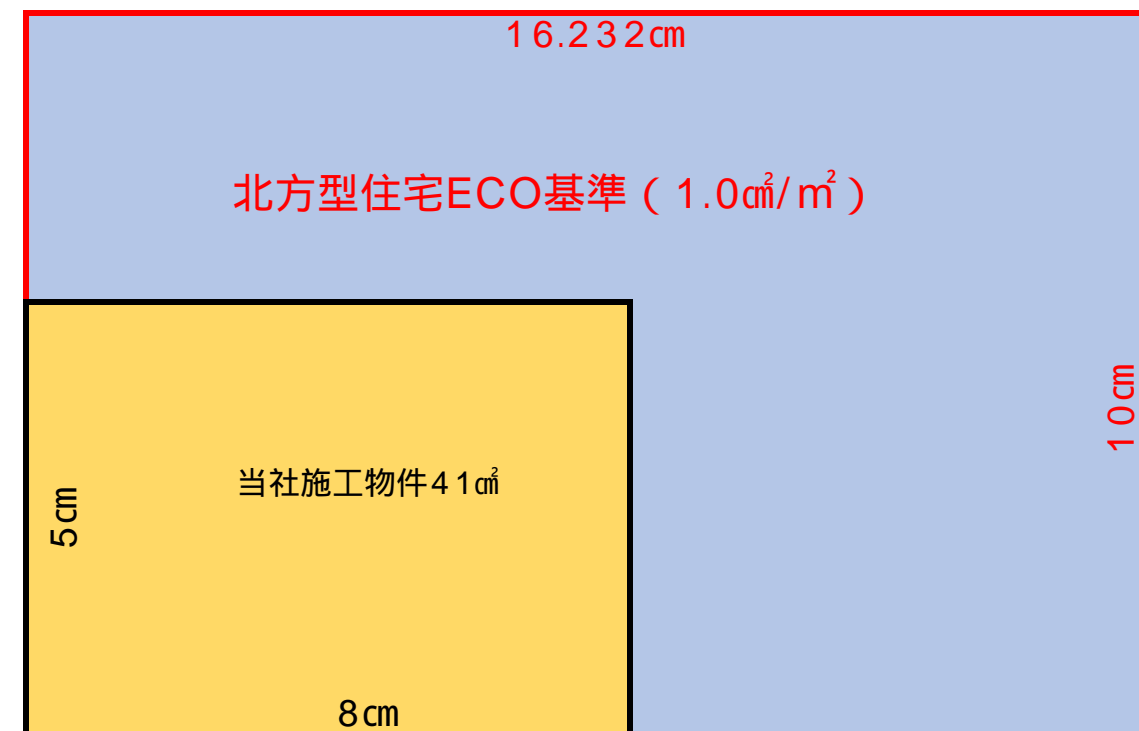
相当隙間面積: C値 $(\text{cm}^2/\text{m}^2) = \frac{\text{住宅のすき間の合計} (\text{cm}^2)}{\text{建物の延床面積} (\text{m}^2)}$



気密性が低いと
計画換気がうまく
いかない

→ 室内の空気がすき間から外に逃げる
→ すき間から外気が室内に侵入する

この建物の隙間面積は
 $5 \text{ cm} \times 8 \text{ cm}$ 程の大きさになります。

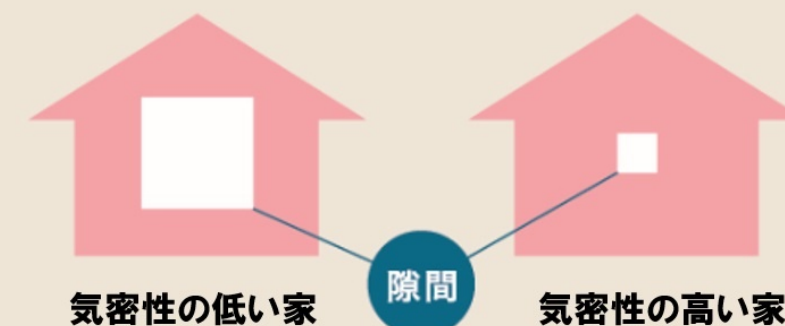


C(シー)値

数値が小さいほど

隙間が小さくなります。

気密性比較イメージ図



※実住宅の数値は、気密測定によって確認することができます。